

令和6年度 学校評価実施報告書	
学校名	五常小
校長名	榎 正文
評価年度	
【スローガン】 毎日楽しい学校 【めざす学校像】 児童が感動し、児童の期待に応える学校 【学校の使命】 児童が安心して楽しく通える安全な学校づくり 児童の確かな学力の育成、学力の向上	
【教育目標】 よく学び 思いやりのある行動をする たくましい子 【今年度重点目標】 自ら学び、自他を尊重し、仲間と高めあえる子の育成	

基本方針	重点項目	具体的な取組内容					
		本年度の重点的な取組(4月)	取組指標(誰が、何を、どのくらいの頻度で)	評価指標(目標)※具体的な数字を入れる	最終報告	分析(成果と課題)	改善策
確かな学力と自立の力を育む教育の充実(学力向上プランと運動)	基礎学力の向上	朝学習(オビタイム)の推進	毎朝15分のオビタイムにおいて、漢字前倒し及び反復学習・音読・百ます計算(毎日)	12月学年別「熟語」テスト 平均正答率70%以上(3月80%) 保護者アンケート 学校は、基礎基本の定着に向けて取り組んでいる 90%以上	12月学年別熟語テスト 平均正答率60%(×) 保護者アンケート 基礎基本の定着 90%(○)	オビタイムは、3種目とも集中して取り組むことができている。	昨年度までのように、1年間の配当漢字を1学期6月までに学習し、より多くの反復ができるようにしていく。
	自律的に学ぶ力の育成	五常小検定の実施	漢字、百ます計算、音読・暗唱のマイスター認定制度の運用(2学期より)	段位獲得児童 のべ400名以上 児童アンケート 家で自分で計画を立てて学習している 85%以上	マイスター検定は、順調に段位者数を伸ばし昨年を上回る予定。 児童アンケート 自分で計画を立てて学習 89%(◎)	教科書改定で漢道下巻の納品が2学期になり、上巻の成績は向上したが下巻の習熟が不足し目標未達であった。	
	自己決定できる子ども主体の学びの実現	自己決定できる子ども主体の学びの校内研究	複数回の研修とともに、個別最適な学び※をテーマに、最低1本の研究授業を行う。(※複線化及び自由進度学習)	複数回の研修とともに、個別最適な学び※をテーマに、最低1本の研究授業	校内研究は、当初目標を大幅に上回り、各学年1本の研究授業を行った。(◎)	校内研究は、研究授業にとどまらず、各学年の普段の授業で個別最適化が進展した。	
豊かな心と健やかな体を育む教育の充実(体力向上プラン・道徳教育全体計画等と運動)	いじめ不適切事案が起きにくい風土の醸成	ルールメイキングとぶれない生徒指導	総合の学習で6年生と学校のルールをつくるとともに、そのルールに基づき自律心を育てる課題予防的生徒指導を行う。(通年)	児童アンケート 先生は自分たちの意見や考えを大切にしてくれる 90%以上 落ち着いた雰囲気の中で授業を受けている 80%以上	児童アンケート 先生は自分たちの意見や考えを大切にしてくれる 90%以上 落ち着いた雰囲気の中で授業を受けている 80%以上	研修課のルールメイキングプロジェクトに参加し、2学期から半年間総合の学習で6年全員で取り組んでいたが、活動の結果は年度内の試行にまで至らなかった。	「学校安心ルール」案を新年度に試行し、その結果を踏まえて、新6年生が完成させていくようにする。また継続してルールを改善していく仕組みを検討する。
	食育の推進	「食育の6つ視点」を指導	給食時間を中心に、各教科、総合的な学習の時間、特別活動をはじめ、教育活動全体を通じ、「食育の6つ視点」を指導していく。また、食物アレルギーや、障がい、個人の身体状況などを考慮し、個に応じた対応を入れていく。	児童アンケート 「配膳されたものを残さず食べられた。」 70%以上	「食育の6つの視点」を念頭に各学級指導を行った。 ・食育の重要性・食事の喜び・楽しさを理解する。(食の重要性) ・心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のと리카たを理解し、自ら管理していく能力を身につける。(心身の健康) ・正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。(食品を選択する能力) ・食べ物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々への感謝する心をもつ。(感謝の心) ・食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける(社会性) ・各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。(食文化)		
教職員の資質と指導力の向上	児童との時間を生み出す働き方改革の推進	超勤時間の管理 業務の精選 業務改善チームの稼働	教職員個別の時間外勤務時間を見える化する。 教職員のボトムアップで細かい業務の精選と削減を行う。 効率的な評価のありかたの検討と休み方改革の試行実施。	平均超勤時間の削減 昨対 1H／月・人 ストレスチェック指標の良化 教員アンケート 校長は業務改善を回り働き方改革を行っている 86%以上 教職員は業務改善を意識して働いている 90%以上	平均超勤時間 本校昨対 2.7H／月・人減(◎) ストレスチェックの指標は良化している。 働き方改革 82%(×) 業務改善意識 77%(×)	①「ラーケーション」の試行、②学年チーム制(低中高)、③休憩室設置、④校内研修「私の目標」の実施 ⑤企画の具体化は改革チーム⑥オフィスグリコの実施 ⑦「学校の役割と責任の明確化について」6年度改定 等を行ったが、教職員の平均的な働き方の意識は高まらず、2極化している。	今後は、管理職の発案ではなく、いかに教職員のボトムアップによる改革にしていかが鍵を握る。
	自己決定できる子ども主体の学びの実現(再掲)	自己決定できる子ども主体の学びの校内研究	複数回の研修とともに、個別最適な学び※をテーマに、最低1本の研究授業を行う。(※複線化及び自由進度学習)	複数回の研修とともに、個別最適な学び※をテーマに、最低1本の研究授業	同上		
学びのセーフティネットの構築	いじめの未然防止や早期対処の仕組みづくり	いじめ対策委員会含む組織の機能改善	市の方針改定を踏まえるとともに、保護者等が具体的に現在のいじめの課題を認識できるよう「基本方針」を改定する。いじめ発生時の聞き取り、記録、検討、対処、進捗確認が迅速かつスムーズに行われるよう、生徒指導の校内体制を刷新する。	児童アンケート 学校が楽しい 90%以上 先生は困った時にいつでも相談に乗ってくれる 90%以上	学校が楽しい 89%(○) いつでも相談 92%(○) 「基本方針」を改定。保護者にいじめの課題について、1月間の意見募集を行った。発生時の迅速な対処が可能になるよう担任外の生徒指導主担者を置いた。	「学校の役割と責任の明確化について」令和6年度改定により、いじめの解決場面で、「謝罪」が切り出しやすくなっている。	不登校(傾向)児童の復帰に実績が出ているものの、抑うつ傾向にあると思われる児童が新規に不登校(傾向)になるケースがある。不登校の未然防止と児童の心の健康の維持を目的に早期のアセスメントを行い、家庭と連携し対処していく仕組みの構築を検討していく。
	非常変災時の危機管理	非常時に真に役立つ訓練へと改善	改定した危機管理マニュアルを遵守するとともにガイドラインに沿って適宜見直す。警察・消防等に指導を受けるなど各種非常時訓練を真に役立つものに改善し、保護者にも周知する。	保護者アンケート 非常変災時に備え適切に安全教育を行っている 90%以上	適切に安全教育 97%(◎) 不審者対応訓練は、枚方署防犯係の指導のもとシナリオなしで、消防訓練は、昼休みに抜き打ちで実施した。	訓練内容の保護者への共有を図ったことにより、安全に対する学校の姿勢への理解につながったと考える。	
	児童の居場所の確保	コミュニティスクールによる子どものための新たな居場所づくりプロジェクト	校内に不登校や学校・学級に入りづらい子どものためのプロジェクト「子どもたちの新しい居場所」をコミュニティスクールの取り組みとして週一回以上実施する。税を投入せず事業者と協力者によって自立・自律的かつ持続可能な運営を行う。	新たな不登校児童を2名以下に抑える	今年度新たな不登校児童が3名発生している。(△) 「子どもたちの新しい居場所」は毎週金曜に実施している。利用者は他校含め4名(今年度新規3名、他校1名)。(○)	不登校児1名(6年)は毎日登校、通常学級で定着し卒業に向け順調である。	
(学校独自の取組) 家庭・学校・地域の連携	学校情報を積極的に発信	学校情報を毎日積極的に発信	学校の経営方針、学校評価、ブログ、学校だより等で学校情報を毎日積極的に発信する。	ブログアクセス数 350件以上／稼業日(家庭数約390) 保護者アンケート 学校の様子がよくわかる。90%以上 保護者アンケート 学校の方針や教育の重点が明確である。90%以上 総アクセス数 8万4000件／年	ブログ更新3000回以上 アクセス330件／稼業日(△) 前年よりアクセス数は増える予定だがチャレンジ目標に対しては未達予定。 様子95%(◎) 重点93%(◎) 総アクセス数5万9472件(12／31 75%消化時点)(△)	従来のボランティア活動に加え、保護者・地域、PTAによる清掃・花壇チームが校内美化等で大活躍している。枚方高生物飼育部とコラボした「メダカ救出大作戦」「天の川フィールドワーク」は広報ひらかたにも掲載された。	花壇など校内美化活動を持続可能なものにするため、児童の委員会活動において園芸活動の付加を検討していく。
	保護者ニーズを踏まえた学校経営	校長へ直接意見する仕組みの運用 重要案件への保護者の参画	校長へ直接意見を届ける仕組み等により保護者意見を汲み取って実現する。また、学校の考え方や改善状況を学校だより等で報告する。新たに税を投入せず事業者と協力者によって自立・自律的かつ持続可能な運営を行う。(通年)	保護者アンケート 保護者ニーズを踏まえた学校経営を行っている。90%以上	保護者ニーズ 91%(○) 保護者アンケート自由記述は30件。すべて回答、公表しており保護者と双方向のやりとりをしている。学校運営協議会が活性化し、保護者・地域を巻き込んだ新しい活動が始まった。保健と人権に関する部会が発足し教職員と合同研修を行った。	「学校の役割と責任の明確化について」は6年度改定にあたり1月間保護者意見募集を行い成案とした。 校長への提言28件 体操服のゼッケン廃止は、保護者意見を実現。負担軽減とともに教職員の働き方にも通じる。	
	児童の居場所の確保(再掲)	コミュニティスクールによる子どものための新たな居場所づくりプロジェクト	昨年開設した子ども食堂を月2回に増やし、子どもの居場所にするとともに、平日に開催することにより、主に孤立しがちな共働きの保護者同士のネットワークづくりを支援する。新たに税を投入せず事業者と協力者によって自立・自律的かつ持続可能な運営を行う。(通年・毎日)	子ども食堂を月2回	子ども食堂は月2回金曜に実施。(○) 運営(費)には、食品等の寄付、食事等の売上、市の子ども食堂補助金とともに、ふるさと納税企業版を活用している。手伝いを申し出る保護者が増え、居場所として完全に定着している。これをハブとして、他地域のボランティアが訪れ、ネットワークが拡大している。他市のフリースクール等はじめ各種企業・団体と連携することで、かねて課題であった運営財源については克服しつつある。	子ども食堂は月2回実施。留守家庭児童会の協力を得て、毎回100人以上が来場、児童と保護者の居場所として完全に定着している。	

学校関係者評価(学校運営協議会または学校評議員と保護者からなる学校関係者評価委員会による)年度末	
評価結果	改善に向けた支援策
概ね妥当である。ただし、今年度の学校アンケートの回答率が低いことを憂慮している。以前は90%ほどあったと思うが、50%以下の回答率での保護者を代表する意見と言えるのだろうか。封筒にアンケート紙が入ってくると、受け取る方は、「これは大事だ」と感じる。集計に手間がかかるが、アンケートを紙に戻すことは一案である。また、調査の実施時期が秋の参観後ならば、参観等担任が保護者と直接会う機会に提出を依頼した方が良い。 この関連で、毎月定例というものではなく、年間で特に重要な発出物(例;学校運営保健人権部会の報告)で保護者に読んでもらいたいものは、紙で発行することも検討して欲しい。	給食の献立表などペーパーレス化したものも紙で欲しいニーズはあるはず。いったん無くした仕分けの仕事を復活させるのではなく、正門横校門監視ボランティア室等に一定期間置き、児童が持って帰る形式ならば、教職員の手間は増えないのではないかと。 ラーケーションは、保護者ニーズはある。例えば、GWの休日の間平日(R7でいえば、4／28と30に挟まれた4／29の月曜のこと)である。5月の土曜授業の代休を翌週月曜にとるよりは、4／29に前倒しして取得する方が良い。 先生が休暇を取りたくてもGWは年度初めからまもなく、取りにくいのかも知れない。上記を踏まえ、休暇を取りたい先生と、取らなくて良い先生との意識差があるとすれば、事前に保護者アンケートをとり、学年などのまとまりで一斉に先生を休みに、一斉に自習する方法はどうか。(次の機会は別の学年にローテーション)